



2016 年 10 月 28 日

公立大学法人福島県立医科大学

放射線医学県民健康管理センター センター長に神谷研二副学長が就任します

本学の神谷研二（かみや・けんじ）副学長が、11月2日付で放射線医学県民健康管理センターのセンター長に就任することとなりましたのでお知らせします。

神谷副学長は被ばく医療の第一人者です。東京電力福島第一原子力発電所の事故発生後は、広島大学から福島に駆けつけ、福島県の「放射線健康リスク管理アドバイザー」として自身の知見や人脈を福島の復興のために惜しみなく提供して来ました。本学においては、業務担当の副学長として、また放射線医学県民健康管理センターの副センター長として、県民の皆さまの健康を長きにわたって見守るための仕組みづくりや運営にリーダーシップを発揮し、今日に至ります。

神谷副学長は、センター長就任後も、本学副学長（非常勤）、広島大学副学長（常勤）を引き続き務める予定です。

●（現任）阿部正文 総括副学長・放射線医学県民健康管理センター センター長のコメント

神谷先生は、広島県・広島大学による福島県支援のリーダーとして、放射線災害に向き合う福島県や本学を支えてくださってきた方です。発災後、広島と福島の行き来が100回を超えるというハードな状況にもかかわらず、広い視野と深い専門性、温かい心をもって、県民健康調査の運営をサポートしてくださっています。

私自身、「安全と安心」の違いを実感し、県民の皆さまに安心していただくために何ができるかを模索しながらセンターの運営に当たってまいりました。その過程において、神谷先生にご無理をお願いし、助けていただいた機会は数知れません。神谷先生は、県民の皆さまの健康見守りの先頭に立っていただくには最適の方であると確信しております。私も所属は変わりますが、県民の皆さまの健康づくりに微力ながら尽力してまいります。

（阿部正文 総括副学長・センター長は11月2日付で福島県病院事業管理者に就任予定）

●（新任）神谷研二 副学長・放射線医学県民健康管理センター 副センター長のコメント

大任を拝命し、改めて身の引き締まる思いでおります。震災後、「被ばく医療の専門家として、福島のためにお役に立ちたい」という気持ちに突き動かされ、広島大学の皆さまの理解や後押しをいただきながら福島復興のお手伝いをしてまいりました。未曾有の災害がもたらした難題の解決に粘り強く取り組む福島県の皆さん、そして、全国、いや海外からも福島に馳せ参じている教職員がひたむきに働いている姿を見るにつけ、焦らずに、しかし着実に、県民の皆さまが安心して暮らすことができる環境づくりを進めていかねばならないと感じています。

初代センター長の山下俊一先生、現任の阿部正文先生の志を引き継ぎ、年内に本格稼動するふくしま国際医療科学センターの各部門や学内外の関係各位との連携を図りながら、県民健康調査のより良い運営や、県民の皆さまの健康増進に資する施策の実施、福島の現状を国内外に正確に理解してもらうための情報発信等に努めてまいります。宜しくご指導のほど、お願い申し上げます。



●**就任予定日**

2016（平成28）年11月2日

●**神谷研二・新センター長の略歴**

1950（昭和25）年12月 岡山県真庭市生まれ

1977（昭和52）年 3月 広島大学医学部卒

1996（平成8）年 2月 広島大学原爆放射能医学研究所教授（～2002年）

2001（平成13）年 4月 広島大学原爆放射能医学研究所長（～2002年）

2002（平成14）年 4月 広島大学原爆放射線医科学研究所教授（～2016年）

広島大学原爆放射線医科学研究所長（～2005年）

2004（平成16）年 9月 広島大学緊急被ばく医療推進センター長（現任）

2009（平成21）年 4月 広島大学原爆放射線医科学研究所長（～2013年）

2011（平成23）年 4月 福島県放射線健康リスク管理アドバイザー（現任）

2011（平成23）年 7月 福島県立医科大学副学長（現任）

2012（平成24）年 4月 福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター副センター長（現任）

2013（平成25）年 4月 広島大学副学長（復興支援・被ばく医療担当）（現任）

※平成28年11月2日時点での年齢 : 65歳